□千葉県史料研究財団（編）：**千葉県の自然誌 本編1　千葉県の自然**　789 pp. 1996. 千葉県. ¥8,900.

千葉県が企画している県史51巻のうち，自然誌関係は12巻が予定されており，本書はその先頭を切るものである．内容は千葉県の大地と気候，千葉県の生物，千葉県の環境保全の三部の下に，15章にわたって地誌，植物誌，動物誌などの総論にあたる部分が，豊富な写真や図を伴って掲示されている．県の自然全般を知るには，本書だけでも十分以上の情報がくみ取れるだろう．植物関係では本編5（細菌〜コケ類）と6（シダ〜種子植物・植生）で，詳細な記述がなされる予定である．連絡先は次のとおり．〒260 千葉市中央区中央4－15－7 千葉県文書館内県史頒布会（電話 043－227－7551）．（金井弘夫）

□林　孝三：**私の研究履歴書—昭和植物学60年を歩む—**　267 pp. 1996. 林孝三先生記念出版会. 非売品.

1995年2月6日，86歳で亡くなられた著者が，死の直前まで執筆されていた原稿を，遺族，後輩の手でまとめて刊行したものである．「日本植物学会百年の歩み」の同氏作の年表でわかるように，林氏の記録の丹念さはつとに知られているが，本書はそのすべてを動員した周到な計画で書き進められ，脱稿寸前で余人が手を加える必要はなかったという．昭和という動乱期を生きた研究者の心情が余すところ無く吐露されており，同時代の者にとって一読巻を措くあたわず，という本である．自己の研究の詳細な流れを軸に，こういう場でないと語りえない人物評や，岩田研究所，資源科学研究所，遺伝学研究所，教育大学，学術会議などの裏話しが随所に記述されている．定年間際の筑波大移転にまつわるくだりは，著者の書き遺したかったことだろう．二才の息子の病気に，自分で作ったペニシリンを試したという敗戦直後の秘話もある．個人の回想録にとどまらず，きわめて史料価値の高い，密度の濃い一書である．一口解説つきの研究論文一覧，その他の刊行物目録，年譜がついている．残部はほとんどないとのことで，希望者は東京学芸大学生物学教室武田幸作氏に問い合わせられたい．（金井弘夫）

□山田慶兒（編）：**物のイメージ，本草と博物学への招待**　490 pp. 1994. 朝日新聞社. ¥3,900.

□山田慶兒（編）：**東アジアの本草と博物学の世界**　上・下　上333　下350 pp, 索引上xviii 下xiv 1995. 思文閣出版. 各¥7,725.

1989（平成元）年，京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地に国際日本文化研究センター（略称日文研）が大学共同利用機関の一つとして設立された．所表は梅原　猛氏である．山田氏は京都大学人文科学研究所教授から日文研の教授に移り，第4研究域文化関係の旧交圏Ⅱの研究課題として「東アジアの本草と博物学の世界」を企画せられた．笠谷和比古助教授が幹事となり補佐された．共同研究者は次第にふえ1994年3月に本研究の一応の終りの頃は共同研究者は26名に及んだ．

研究の成果の発表として研究課題名と同じ名の書が出版され，その中間報告としてその前年上記の最初の書が出版された．いずれも本研究グループの研究の成果である．木村は山田教授の依頼で第3回に「日本本草の発展形態」と題して話をしたが，研究会の第14回あたりから共同研究者に委嘱され，この研究班に終りまで参加した．共同研究者のなかには研究会で発表したものが活字とならなかった人もある．しかし両書をみればこの会のありさまを推測することができるのでここに目次のみを紹介する．

『物のイメージ，本草と博物学への招待』

序　効分け・食分け・見分け——本草から博物学へ　山田慶兒

Ⅰ　動物

人魚とリュウグウノツカイ——伝説と動物学とのはざま　西村三郎

海を越えてきた鳥獣たち　磯野直秀

享保版「象」のすべて　大庭　脩

トキの黒い羽をめぐって　安田　健

Ⅱ　薬物

朝鮮人参生草の献上　田代和生

鴆鳥——実在から伝説へ　真柳　誠

梅毒治療薬始末記　宗田　一

Ⅲ　書物

山田慶兒（編）：物のイメージ，本草と博物学への招待

上巻

下巻

各章の節について記せば

山田慶児「本草における分類の思想」では

1. 世界像としての分類. 2. 類書の分類と字書・正史. 3. 動植物の分類と三品分類. 4. 自然分類と実用分類. 5. 技術的思考と分類. 6. 可能性としての分類, 7. 本草の終焉.

木村陽二郎「植物の属と種について」1. 植物の学名. 2. アリストテレスの属と種. 3. 種とは何か. 4. 属の考え. 5. 学名の成立. 6. 学名の確立. 7. 日本の本草. 8.『本草綱目啓蒙』の種とは. 9. 漢名と和名. 10. 日欧本草の接触とケンペル. 11. リンネの弟子ツュンベリー. 12. シーボルトと伊藤圭介. 13. 宇田川榕菴の植物学. 14. 飯沼慾斎の植物誌. 15. 松と杉. 終りに.

第3の論文，西村三郎「東アジア本草学における植虫類」. 以下の小見しは略す. （木村陽二郎）

□Mapping Sub-Committee, National Council for Science and Technology, Nepal : **Index of Geographical Names of Nepal** Vols. **1** : 429 pp (1987), **2** : 465 pp (1988), **3** : 402 pp (1988), **4** : 350 pp (1988), **5** : 299 pp (1988). Mapping Sub-Committee, Kathmandu. 各 Rs. 300 (ネパールルピー).

ネパール全域の地名が県 (Zone), 郡 (District) でまとめられ，その中は地名のアルファベット順に配列されて，経緯度，高度が示されている．地名数は約46,000件である．ネパールには県が14あり，それらが東から2～3県ずつまとめられて各巻を構成する．カトマンズの属するBagmati ZoneはVolume 2である．川の場合にはその長さ，湖